

教育目標

自ら考え主体的に学ぶ生徒
明るく思いやりのある生徒
健康でよく働く生徒

学校だより「岩瀬ヶ丘」



第 7 号

平成29年 6月16日発行
須賀川市立第二中学校
☎75-2910
発行責任者：校長 高崎則行

卒業までの見通しをもってベストを尽くす～切り替えは「今」

6月15日(木)に県中地区総合体育大会が終了しましたが、その結果はもう少し時間をいただいて整理をして次号でお知らせいたします。

さて、3年生は、これから県大会に挑む生徒も、そうでない生徒も、卒業までを見通していかに充実した生活を送るかが、進路目標の実現に大きくかかわってきます。「本気になってやっても、勉強は思うほどはかどらない。」このことは、本気になって勉強したことがある生徒はわかっています。本気の志望校が決められない生徒には、「そのうち本気になれば…」と思っている生徒が多いのですが、それは甘い期待にすぎません。やはり継続こそ力なのです。思い立ったときが最適期。下記の表を参考にし、なるべく長い期間ベストの取り組みができるようお子さんの自己決定を促してください。

まだ、お子さんが1、2年生の方も参考に、部活動と勉強の両立を図る生活習慣を身につけさせましょう。

【3年生の進路希望実現に向けての1年間の見通し】

4 ～ 6 月	(第1学期始業式～運動部引退) 志望校合格ラインを目標にして、1、2年の復習と3年の <u>日々の勉強を並行して計画的に進める生活パターン</u> を身に付ける。 県立Ⅰ期で第1志望に挑戦し、不合格なら県立Ⅱ期で第2志望を受験する。私立を第2志望として併願で受験し、合格したら県立の第1志望に挑戦するなど、 <u>受験パターンを想定して、高校体験入学を計画する。</u>
7 ～ 8 月	(運動部引退～夏休み) これまでの学習範囲で、 <u>できなかったところ、できたけれども忘れてしまったところを復習する</u> (確実にできるようにする)。 体験入学の経験を踏まえて第1志望と第2志望の高校をはっきりさせる。さらに、 <u>高校入学時月々にどのくらいお金がかかるのかを具体的に調べる</u> ことも重要です。(親の大変さをわからなければならない)
9 ～ 10 月	(第2学期始業式～三者面談) <u>放課後部活動がなくなって生まれた時間も活用してさらに充実した家庭学習ができるように生活パターンを改善する。</u> わからない、できないところは翌日までに解決するという決意で実行する。 <u>この時期までに不得意教科を重点的に勉強し、克服するのがベスト。</u>
11 ～ 12 月	(三者面談～志願書作成) 高校卒業後はどのような進路に進みたいのか、高校生活では何がしたいのかを <u>家族に理解してもらったうえで、志望校の合格可能性を吟味(ぎんみ)し、受験する高校を決定する。</u> 合格可能性を高めるために、不得意教科の勉強をおろそかにしない。
12 ～ 3 月	(面接練習～受験(卒業)) 志願書の作成や面接練習にばかり気を取られて、勉強時間が短くなる人も。 <u>ペースを崩さず勉強時間をこれまでどおり確保できるかどうか</u> が明暗を分ける。 <u>過去の入試問題に取り組んで問題を解くペース配分を確認するとともに、遅くとも受験日の1週間前になったら受験の時間帯に頭脳のピークが来るような生活を心がける。</u> 合格者が増えてくると心が乱れるが、「全員合格」を実現できるか、クラスの真の団結力が問われる。

少年非行を少年の力で防ぐ 私たちがTPTです



須賀川地区防犯協会のTPTに小・中学生、高校生41名が委嘱されました。本校生では、白石優花さん、柳沼亜樹さん、阿部純華さん、大山奈々花さんの4名で、いずれも2年生です。

TPTとは、“The Power of Teenagers”の略称で、「警察だけでは少年非行を防止できない。」という発想に立ち、少年非行防止のために同じ世代の若者にひと役買ってもらうというものです。今後、非行防止キャンペーンや環境美化活動などを行います。

黒のTシャツに、赤いキャップとベストのユニフォームで活動している姿を見かけましたら、どうぞ温かい声をかけてあげてください。

早朝の奉仕作業にご協力 ありがとうございました

6月10日(土)は、早朝6時からの奉仕作業に370名のご参加いただき、誠にありがとうございました。この整然と整えられた環境を、生徒とともに維持してまいりたいと思います。

保護者の皆さんの背中を見て、生徒たちも熱心に作業できたようです。このことにも重ねてお礼申し上げます。



一味違うぞ！二中生

岩瀬地区総合体育大会前から、毎朝、7人の男子生徒が昇降口などであいさつ運動をしています。実は、この生徒たち、過ちをして迷惑をかけたので、その償いにあいさつ運動をしているらしいのです。最近、私のそばでやっています。運動部の選手らしい気合の入った元気のいいあいさつです。その様子を見て、こんな期待が高まりました。

この生徒たちがもうひと頑張りすると、周囲から「アイツらのあいさつは、人にやらされているレベルではないな。あの取り組みは誰にでもできる、そんなもんじゃないぞ。」と評価されるようになるのにな。

それが、この記事を書いた動機です。始めたきっかけはどうあれ、そこまで頑張ってもらいたいのです。そこまで頑張れたら「一味違う、二中生」です。

さて、どうなるでしょうか。私の評価は申しません。お子さんに尋ねてみてください。



この学校だよりは、本校HPからもご覧いただけます。